

## 1 五條市立学校施設等の耐震化状況について

平成27年4月1日現在

学校別・ 建物種別		全 棟 数	S57年以降 建築の棟数 (新耐震)	S56年以前 建築の棟数 (旧耐震)	補強の必要がない 建物及び補強済 建物の棟数	耐震化率
		A	B	C	D	(B+D)/A
幼稚園		1	0	1	0	0%
小学校	校舎	26	17	9	9	100.0%
	体育館	7	3	4	4	100.0%
中学校	校舎	24	15	9	8	95.8%
	体育館	6	4	2	2	100.0%
小・中合計		63	39	24	23	98.4%
総合計		64	39	25	23	96.8%

\* 対象となる建物は非木造の校舎等で2階建以上又は延床面積が200㎡以上の幼稚園、小・中学校の校舎等です。(ただし、休園、休校は対象外です。)

\* 棟数については、構造体ごとに計上しています。

## 2 耐震診断結果一覧表について

耐震診断結果については、別添「耐震診断結果一覧表」のとおりですが、昭和57年以降の新耐震設計基準で設計された建物及び昭和56年以前の旧耐震設計基準で設計された建物のうち、耐震診断の結果、補強の必要がない建物及び耐震補強工事済みで耐震性能が確保されている建物は記載しておりません。

### (1) 耐震診断の種類

- ① 耐震化優先度調査：建物の建築年、構造等から第2次診断実施の優先順位を判断する簡易な判定方法です。
- ② 第1次診断：個別の建物の耐震性能を簡略に評価する診断方法です。
- ③ 第2次診断：個別の建物の耐震性能を詳細に評価する診断方法です。

(2) 構造区分

R: 鉄筋コンクリート造

S: 鉄骨造

(3) Is値(構造耐震指標) : 第1次診断または第2次診断の結果、建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される指標で、その最小値を表記しています。

**【Is値の目安】**

Is値 0.3 未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い
Is値 0.3 以上 0.6 未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある
Is値 0.6 以上	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

\* 文部科学省は、Is値 0.7 以上を「耐震性がある建物」として取り扱っています。

\* 大規模な地震とは、震度 6 強から震度 7 程度の地震を想定しています。

(4) q値(保有水平耐力に係る指標) : 第2次診断の結果、算出される建物が水平方向に受ける力に耐えられる力の指標を表記しています。

**【q値の目安】**

おおむね 1.0 以上を目標としています。

(5) 優先度ランク : 耐震化優先度調査の結果、5段階に判別された総合的な評価指標を表記しています。

**【優先度ランクの目安】**

ランク①が最優先に第2次診断を実施すべき建物です。